

令和7年度 自己点検・自己評価 学校運営評価

学則 第4条 本校は、その教育の一層の充実を図り、本校の目的及び社会的使命を達成するため、本校における教育活動等の状況について、自ら点検及び評価を行うものとする。

目標 教育活動やその他の学校運営について、達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価・公表し、学校としての組織的・継続的な改善を図る。

評価期間： 令和7年4月～令和8年3月の1年間

実施者： 教職員18名

評価項目： 120項目

評価尺度： 当てはまる 3
 やや当てはまる 2
 当てはまらない 1

表1 令和7・6年度の評価平均比較

カテゴリー	令和7年度	令和6年度
I 教育理念・教育目的	3.0	3.0
II 教育目標	2.9	2.9
III 教育課程経営	2.8	2.8
IV 授業・学習・評価	2.8	2.9
V 経営・管理過程	2.9	2.8
VI 入学	2.9	2.9
VII 卒業・就職・進学	2.8	2.6
VIII 地域社会・国際交流	2.8	2.6
IX 研究	2.6	2.5

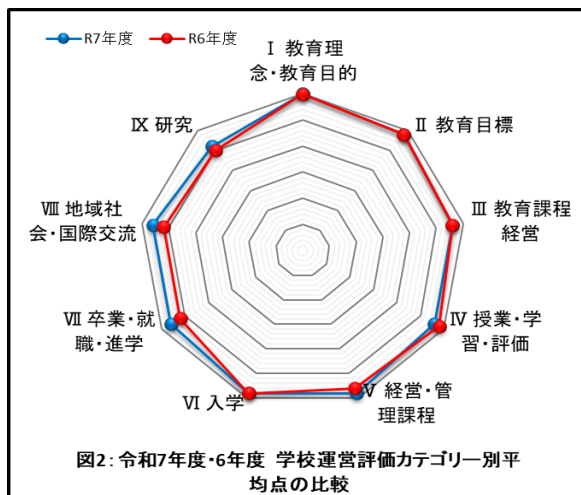


図1: 令和7年度・6年度 学校運営評価カテゴリー別平均点の比較

結果

1. カテゴリー 表1、図1参照

平均点がR6年度より上がったカテゴリーは4カテゴリー
 平均点がR6年度より下がったカテゴリーは1カテゴリー

2. 項目では (R6年度と平均点を比較し) 資料1

上昇した項目	120項目中41項目
同じ項目	120項目中48項目
低下した項目	120項目中31項目

結果及び分析

大項目	結果及び分析
I 教育理念・教育目的	<ul style="list-style-type: none"> ・カテゴリー平均値はR6年度と同様の3.0である。 ・教育理念・教育目的が「卒業時に持つべき資質」と理解されている。また、「看護・看護基礎教育・学生観」についても学生便覧に記載されており、理解されている。
II 教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・カテゴリー平均値はR6年度とすべての項目において同様の2.9である。教育目標、シラバスや授業計画から理解されていると判断する。卒業後の自己教育力育成という観点から、教育理念や目的から降りてきている目標であるため、設定していることの理解がなされた。
III 教育課程・経営	<ul style="list-style-type: none"> ・カテゴリーの平均値はR6年度と同様の2.8である。 ・R6年度より上昇している項目は10項目である。その中で0.2上昇している項目は3項目あり、「教育内容の具体的内容とその到達レベルについて検討」「教育課程の評価を組織的に実行修正」「教員の自己研鑽・相互研鑽のシステムが整えられている」である。0.1の上昇は7項目である。「科目は本校の特徴」「履修方法の明示」「評価基準の方法と明示」「単位互換の明示」「倫理規定の明示」「専門性のある担当科目の設定」「教員の自己研鑽システムの整備」「倫理的配慮の明示」である。倫理規定や合理的配慮ガイドライン等規定を策定したことにより、整備が進んだと思われる。また、上昇した項目はR6年度低かった項目である。R7年度これらの項目を重点的に改善した表れである。

III	教育課程・経営	<p>・R6年度より低下している項目は0.4低下が「時間割の調整」。2年次の老年看護学実習Ⅰを後期から前期に移動したことにより、前期の講義時間数が増えたこと、非常勤講師講義希望枠が固定されており、柔軟な変更が困難だったことが要因と言える。R8年度は前期の科目を後期に移動し、柔軟な時間割になるよう努める。0.3低かった項目は1項目、「臨地実習施設への教育理念・目的・目標の理解」は実習要綱に記載されており、学習会や実習指導者会議、臨地実習において確認することができる。令和8年度は、実習指導者会議の際、会議資料に掲載するとより周知できるのではないかと考える。0.2低かった項目は3項目あった。[学習の質を維持できる科目配列]はカリキュラム評価を行い明らかにしていく。「単位未取得科目の原因分析と対応策」は個別サポートを中心に支援していたが、振り返りを行っての結果を「気になる学生」にて周知していく。「授業準備時間の確保」はどのくらいの準備時間が必要なのかを明らかにしていく。0.1低かった項目は2項目、「実習施設での効果的な学生数配置」はどの臨地実習の学生数配置が効果的でなかったのかを明らかにしていく。「インシデントの分析・改善策」は教務会議や学習会、随時必要な時に周知している。</p>
IV	授業・学習・評価	<p>・カテゴリーの平均値はR6年度と比較し、0.1低下した。</p> <p>・上昇している項目が1項目、低下している項目が11項目あった。上昇している項目は「評価結果を学生が活用できる適切な時期に返却」である。特に実習成績の返却が適正な時期に返却されているのか検証が必要である。</p> <p>0.3低下している項目は「教員間の協体制の整備」である。臨地実習中、代替要員として領域担当一人の場合、他の教員が担当できるよう、バックアップ体制をとった。学生指導は一グループ1教員でないと、十分な指導ができない場合もあるようだ。令和8年度は状況に応じて協体制をとっていく。</p> <p>0.1低下の10項目は「授業内容の重複や整合性、関連等が明確」は教員に講義の中で重複や関連性を確認することを周知したが、今後は全教員でカリキュラムツリーを作成し共通理解をしながら進めていく。「授業展開の看護技術を授業計画に明示」「授業方法を選択した学習支援」「評価計画の立案」「多様な評価方法」「達成状況の多面的把握」「評価基準の方法と公表」「評価の公平性担保」「シラバスの提示、学習への指導の一貫性」「動機づけ」である。これらは授業計画立案を指示しているが、確認方法は確立していない。今後は授業計画書の提出を求め、把握・指導の徹底に努める。</p>
V	経営・管理課程	<p>・カテゴリーの平均値はR6年度と比較し、0.1上昇した。全42項目のうち上昇している項目が13項目、低下している項目は9項目だった。</p> <p>・0.1上昇は8項目、「管理運営の提示」「設置者と考えの一貫性」「教職員の財政に関する意見の反映」「施設設備の整備」「学生生活支援体制」「支援による学習継続の支援」「年度目標と長期展望との整合性」「自己点検・自己評価のフィードバック」である。0.2上昇は4項目、「卒業生の相談対応」「自己点検・自己評価の維持改善への機能」「学生の自主活動等活動支援」についてはボランティア活動や看護学生作文コンクール応募、卒業生の国家試験支援などによる結果と考える。「教職員への福利厚生」は出退勤アプリの導入など、環境が整備されたことが要因と考える。0.3上昇は1項目、「非常時の危機管理体制」は地震時の対応、クマ出没の対応等で理解が得られたと考える。</p> <p>・低下した9項目はすべて0.1の低下である。「管理者による教育課程運営の考え提示」「管理者による教育評価の考えを提示」この2項目は資料(学則・要項・学生便覧)に記載あり、すでに提示していることから、理解してほしい項目である。「意思決定の周知」は校務分掌・業務分担表に明示済みである。各種会議で周知していることから、理解してほしい項目である。「教職員の任用は教育理念・教育目的達成との整合性」は採用条件をナースセンターに示しているが、教職員は見る機会がないと考える。また、採用するにあたり、学校の教育理念や目的を遂行できる人材の確保に努め、誰でもよいから採用するということはしていない。「税制基盤の確保」については県への陳情を実施し、令和7年度から補助金の増額につながった。セミナー開催後はグループの医業利益等説明を行っている。また、定員確保が収入増につながることから令和8年度の入学生定員確保ができた。「教育環境の整備に関する管理者の考え」は施設設備の保守管理を計画し実施している。学生の要望と合わせながら、学校としての考えを提示している。変更の必要がある時は、意見を反映するよう、検討する。「教育環境の整備計画」は各教科から教材等の要望を集約し、事業計画に盛り込んでいる。学習効果を下げない必要な教材等は計画的に請求することを望む。「保護者への情報提供」は令和7年度の学校ホームページは令和6年度と比較し8回多くアップしている。また、WEBポータルにおいても、日本学生支援機構の情報を保護者へも提供している。成績通知表も同様である。さらにどのような情報提供が必要か、意見を求む。「自己点検・自己評価運用」は引き続き学校運営評価、学校関係者評価を実施している。R7年度初めて学校運営協議会を開催したことは前進だと考える。</p>

VI	入学	<ul style="list-style-type: none"> ・カテゴリーの平均値はR6年度と同様の2.9である。 ・0.1上昇しているのは「入学者選抜の推移を分析検証している」である。定員確保の点から入試形態変更に伴う説明を幾度も行ってきた。0.1低下している項目は「教育理念・目的・目標との一貫性をもった入学者選抜」定員確保を最優先した結果、一貫性をもつことまでは至らなかった。「選抜の公平性」に関しては要項・内規に基づき実施できた。
VII	卒業・就職・進学	<ul style="list-style-type: none"> ・カテゴリーの平均値はR6年度から0.2上昇し、2.8となった。1項目を除きすべての項目で上昇した。 ・R6年度にR5年度卒業生を招き、引き続きR6年度の卒業生を招いた。教員との情報交換、在校生との意見交換を実施した。28名が来校したことと、卒業生による教育目標達成度調査も実施できた。 <p>しかしまだ、卒業生の活動状況や就職先での評価把握は進んでいない。次年度の課題とする。</p>
VIII	地域社会・国際交流	<ul style="list-style-type: none"> ・カテゴリーの平均値はR6年度と比較し、0.2上昇し、2.8となった。 ・「国際的視野を広げるための自己学習に適した環境」「留学生の受け入れ体制」は0.6上昇した。「留学等学生に対応できる体制」は0.5上昇している。R7年度より国際交流・海外研修の学生・保護者の説明会を開き、10月には視察を終え、3月実施と計画的に進めることができた。 <p>・0.1低下は「看護教育活動を地域社会へ貢献している」の1項目である。地域の実習が始まってから、地域との連携ができ、市民センターとの共同や学生のボランティア参加が進んだことから理解を促していく。</p>
IX	研究	<ul style="list-style-type: none"> ・カテゴリーの平均値はR6年度から0.1上昇している。すべての項目において0.1～0.2上昇している ・R7年度より日本看護学校協議会に入会し、研修の機会が多く、研究活動への対応基盤ができつつある。また、徳洲会東北ブロック看護・介護研究発表会にて発表を行うことができた。

評価

- 1 カテゴリーの平均値がR6年度より4カテゴリー上がった。下がったカテゴリーが1カテゴリーだった。
この結果から、学校運営は概ね理解が得られている。

2. 課題と今後の方針

	大項目	課 題		今後の方針
		中項目	小項目	
III	教育課程・経営	・教育課程の編成	時間割の調整	令和8年度は前期・後期の科目講義時間の調整をはかり、柔軟な時間割編成とする
		・教育計画	科目配列	全教員によるカリキュラム評価を行い、学習の質を維持できる科目配列を検討する
		・教育課程評価	単位未取得科目の原因分析と対応策	カリキュラム評価により明らかにする
		・教員の教育	授業準備時間の確保	ガイドラインで示された時間と現状を把握し、調整・検討する
		・実習環境・指導体制	臨地実習施設が本校の教育理念、目的、目標を理解	教育理念、目的、目標を実習指導者会議、指導者打合せにて周知する。
IV	授業・学習・評価	授業内容の一貫性・妥当性・関連性	授業内容の重複や整合性、関連	教員に講義の中で重複や関連性を確認することを周知したが、今後は全教員でカリキュラムの共通理解を進めていく。
		・授業展開の工夫	教員間の協力体制	臨地実習中、代替要員として領域担当一人の場合、他の教員が担当できるよう、バックアップ体制をとった。学生指導は状況に応じて協力体制をとっていく。
		・授業展開の工夫 ・授業目標の評価 ・評価基準の方法と公表	授業計画の立案と明示	授業計画立案を指示しているが、確認方法は確立していない。今後は授業計画書の提出を求め、把握・指導の徹底に努める。
V	経営・管理課程	・財政基盤	財政基盤の確保	入学生の定員確保
VII	卒業・就職・進学	卒業生の就職先での評価・活動状況	把握と分析・活用	R8年度は就職先施設への調査を行う。活動状況を把握し統計分析し、分析結果を活用

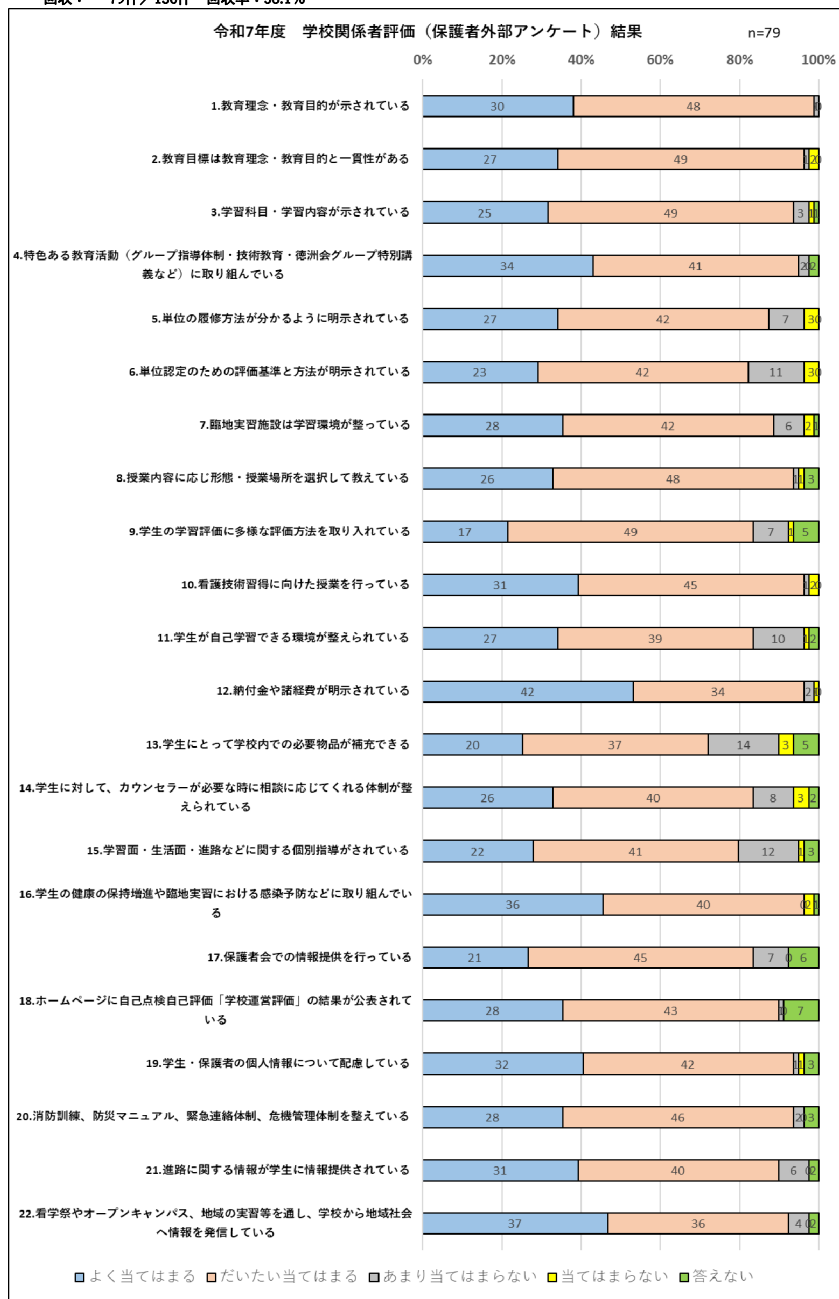
令和7年度 学校関係者評価 保護者外部アンケート実施結果

調査期間：令和8年1月16日～令和8年1月31日

調査方法：QRコード（学年別）からアンケートに答える質問紙調査

調査対象者：全学生の保護者136名に配布

回収： 79件/136件 回収率：58.1%



項目	評価
1 教育理念・教育目的の明示	「よく当てはまる・だいたい当てはまる」が96.2～98.7%でした。受験生への相談会、オープンキャンパス、新入生保護者オリエンテーションや保護者会を通して、ご理解いただいた。
2 教育目標と教育理念・教育目的の一貫性	
3 学習科目・学習内容の明示	「よく当てはまる・だいたい当てはまる」が93.7%でした。学校案内、ホームページやWebポータルでお示ししていることからご理解いただいた。
4 特色ある教育活動に取り組む	「よく当てはまる・だいたい当てはまる」が94.9%でした。徳洲会グループの特徴である臨島医療・看護やTMATの災害活動などの特別講義や災害看護の講義、太白区消防署との多数傷病者対応訓練、個別サポート体制、看護技術支援については、十分ご理解いただいた。その他、今年度から1年生の「病院見学研修」、2年生の「解剖見学実習」（再開）、ベトナムダナンへの国際交流・海外研修を企画・運営しました。
5 単位の履修方法が分かるように明示	「よく当てはまる・だいたい当てはまる」が82.3～87.3%でした。新入生保護者オリエンテーション時、資料を用いて詳しい説明を行いました。また、HPシラバスに詳細を掲示しており、ご理解いただいた。
6 単位認定のための評価基準と方法が明示	
7 臨地実習施設が充実	よく当てはまる・だいたい当てはまるが88.6%でした。仙台市近郊で臨地実習が行えること、学習環境が整っている臨地実習施設と連携を図っています。今年度は母性看護学実習において8名が福島市の実習施設にて実習を行いました。往復の新幹線特急券代を学校が負担することで概ね理解が得られた。
8 授業内容に応じ形態・授業場所の選択	「よく当てはまる・だいたい当てはまる」が83.5～93.7%でした。Webポータルのシラバスに評価方法（筆記試験・レポート・実技試験・臨地実習など）が掲載されておりますので引き続き、ご確認をお願いいたします。
9 学習評価に多様な評価方法を取り入れ	
10 看護技術習得に向けた授業	「よく当てはまる・だいたい当てはまる」が96.2%でした。看護技術指導に力を入れているのが教育の特徴でもあり、看護技術支援については「演習の時間がとても充実している、環境が整えられている」とのご意見があり、十分ご理解いただいた。今後も学生が練習できる環境を整え、技術支援して参ります。
11 学生が自己学習できる環境整備	「よく当てはまる・だいたい当てはまる」が83.5%でした。図書室の学習スペースが拡充され、学習環境は整っていることからご理解いただいた。
12 納付金や諸経費の内容が明示	「よく当てはまる・だいたい当てはまる」が96.2%でした。学校案内や学生募集要項等、納付金の依頼文書においてご理解いただいた。
13 学生は学校内での必要物品の補充が可能	「よく当てはまる・だいたい当てはまる」が72.2%と最も低い値でした。学生自身が計画的に必要な物品を準備しておくことが必要になります。次年度より設問項目を検討してまいります。
14 カウンセラーが必要な時に相談に応じる体制	「よく当てはまる・だいたい当てはまる」が83.5%でした。webポータルにて保護者にも学生相談を行っている情報を共有していることから令和6年度は76.9%より6.6ポイント上昇しました。「学生相談室だより」を用い、学生に利用を勧めております。学生相談の利用回数は令和6年度と変わりはありませんでした。
15 学習面・生活面・進路などに関する個別指導	「よく当てはまる・だいたい当てはまる」が79.7%でした。「あまり当てはまらない・当てはまらない」は16.5%だったことから、「答えない」を除くと概ね理解は得られていると判断する。設問4でのサポート体制は学校の特徴として理解を得られています。個別サポート支援について学生にアンケートをとり、90%以上の学生が支援は良かったと回答を受け、十分理解されていると判断します。今後も一人ひとりにあった個別サポート支援ができるよう学生・保護者と情報を共有して参りたいと考えます。
16 学生の健康の保持増進や臨地実習における感染予防の取組み	「よく当てはまる・だいたい当てはまる」が96.2%でした。今後も健康診断の結果を踏まえた健康の保持増進の支援、小児感染症予防接種等の支援、感染対策に取り組んで参ります。
17 保護者会での情報提供	「よく当てはまる・だいたい当てはまる」が83.5%でした。令和6年度は72.3%でしたので、11.2ポイント上昇しました。webポータルにて保護者会参加について情報提供していることから、周知されていると判断します。
18 「学校運営評価」「学校関係者評価」の結果公表	「よく当てはまる・だいたい当てはまる」が89.9%でした。学校ホームページに改善点や検討課題をまとめ、掲載しております。また、今年度は「学校運営協議会」を開催し、有識者、地域、保護者のご参加を得て、広く学校運営の理解を得ております。
19 学生・保護者の個人情報への配慮	「よく当てはまる・だいたい当てはまる」が93.7%でした。個人情報保護規定に基づき、個人情報保護をしており、ご理解いただいていると考えます。
20 消防訓練、防災マニュアル、緊急連絡網の作成と危機管理体制の整備	「よく当てはまる・だいたい当てはまる」が93.7%でした。近隣の駐在所や警察署からの情報提供をふまえ、学生に安全の確保を周知しております。今後は災害時の帰宅困難の対応をふまえ、学校・学生の安全を第一に考えて参ります。
21 学生への進路に関する情報提供	「よく当てはまる・だいたい当てはまる」が89.9%でした。進路に関する情報は入職先からの卒業生の挨拶を掲示することや就職試験時の内容を記したファイルの提示、個別サポート支援も行っており、ご理解いただいていると考えます。
22 学校から地域社会へ情報の発信	「よく当てはまる・だいたい当てはまる」が92.4%でした。今年度は学校ホームページ掲載を増やしました。みな様に学校生活を知っていただく機会とし、今後も掲載回数を増やして参ります。